

週報

2024年度 教会標語

「主につながり、その枝としてひろげて」

<先週の説教から>

『ルカ⑩一人々はみな驚いた！』

イザヤ書 9:1~6 ルカ福音書 4:31~37

武田真治牧師

イエス様が最初のみ言葉を語られた場所は、ガリラヤ地方の「カファルナウム」という町であったと考えられます。その根拠はマタイ福音書4章13節に「そして、ナザレを離れ、ゼブルンとナフタリの地方にある湖畔の町カファルナウムに来て住まわれた。」からです。更に9章1節で、カファルナウムを「自分の町」と呼ばれています。今日のルカ福音書4章23節でも、故郷ナザレの会堂で説教をされた折「あなたがたは、『医者よ、自分自身を治せ』ということわざを引いて、『カファルナウムでいろいろなことをしたと聞いたが、郷里でもしてくれ』と言うに違いない」と仰っておられます。ナザレの前にカファルナウムで伝道を開始されたのでした。御自分の“住んでいる場所から伝道を始められた”という点は、私たちにとって何より教えられる《伝道の在り方》ではないでしょうか！それが大変で、厳しい伝道であっても！

そのカファルナウムの会堂で、み言葉を語っておられた時に「会堂に、汚れた悪霊に取りつかれた男がいて、大声で叫んだ。」のでした。ただ、変だと思われる事は、この会堂はユダヤ教の会堂で、この時は礼拝の最中です。そこに“悪霊に取りつかれた男”が参加していたという点です。ユダヤ教の礼拝では、汚れていると彼らが認める人や罪人と思われる人を礼拝には参加させないからです。考えられることは、イエス様が誰でも来て、話しを聞いて良いよと招かれたからかもしれません。もう一つは、表面的には普通の人のように思えたから礼拝に出ることが出来たとも考えられます。そうだとすると、まさにイエス様の説教を聞いて、彼の中で隠れて住み着いていた悪霊があぶり出されて、その本性を見破られた状態になったということでしょう。だから、悪霊は『ああ、ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。』と叫んでいると言い得ます。

まさにここにイエス様の“み言葉の妻さ”が現れていると言い得ます。隠れているもの、隠そうとしていることを露にしようとする“言葉の力”があると。その上で、イエス様が『黙れ。この人から出て行け』と言われると悪霊はその人から出て行ったのでした。これも“言葉の力”によるものです。この様子を見ていた「人々は皆驚いて、互いに言った。『この言葉(=原文ではロゴス)はいったい何だろう。権威と力をもって』』いると感じたのでした。まさに、人々はイエス様の持つ“言葉の力”に驚いたのでした！

私たちも自分の中になかなか“手放せない・囚われている”出来事や思いがあるのではないのでしょうか。自分ではそれを「追いつけない」でいるものが、主のみ言葉はそこに切れ込まれます、痛いけれどそれが“私の救い”となります！

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 12月25日(水) 20:00
II. 12月26日(木) 10:30

聖書研究: ローマの信徒への手紙

祈祷主題: 2024年を振り返って

担当者: (水) 羽倉 (木) 小草

祈りに覚える人: 佐伯さん 桜井さん

*ハンナの会(12月17日(火)) 男2 女8 計10

*ひつじ雲の会 : 休会

【教勢報告】

主日礼拝 男23 女55 計78
祈祷会 I. 男4 女2 計6 II. 男2 女10 計12
日曜学校 幼稚科14 小中科10 計24

【次週礼拝】 12月29日(日)

聖書: 詩編 48:1~15

ヨハネの黙示録 21:1~4と22~23

説教: 「詩編⑩—私たちはあなたの慈しみを
思い描く」 武田真治牧師

讚美歌: 270(1)、32、361、511、510、92(1)

【次週当番表】

司式: 金刺長老 奏楽: 羽倉長老 礼拝: 坂田長老

献金: 村上 森本 受付: 大野 北條

会堂準備: 伊藤 伊藤 岩井 岩井

看板: 岩佐 週報: 高橋 お花:

【次週集会予定】

礼拝前: ・聖書輪読会 ・求道者会

礼拝後: ・牧師と語る会 ・お茶の会

・改革長老協議会 青年クリスマス会

2024年 12月 22日

日本キリスト教団 上尾合同教会
牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>